

Economic Indicators

定例経済指標レポート

指標名: 鉱工業生産指数(2016年12月)

発表日: 2017年1月31日(火)

～生産の上昇傾向が明確化。先行きも上昇が続く見込み～

第一生命経済研究所 経済調査部
担当 主席エコノミスト 新家 義貴
TEL : 03-5221-4528

(単位:%)

		鉱工業生産								資本財(除く輸送機械)		消費財	
		生産		出荷		在庫		在庫率		出荷		出荷	
		前月比	前年比	前月比	前年比	前月比	前年比	前月比	前年比	前月比	前年比	前月比	前年比
15	1月	2.9	▲2.6	3.5	▲2.6	▲0.1	5.6	▲1.0	9.3	8.5	3.2	3.8	▲8.1
	2月	▲2.2	▲2.4	▲3.2	▲3.0	0.9	7.0	1.7	8.6	▲9.7	▲3.1	▲2.0	▲5.2
	3月	▲0.5	▲2.0	▲0.6	▲3.0	0.1	6.1	0.4	8.2	▲0.3	▲2.0	▲0.6	▲6.8
	4月	0.7	▲0.2	0.9	0.0	0.0	6.4	▲0.3	6.9	2.2	3.1	0.0	▲3.7
	5月	▲2.2	▲4.5	▲1.4	▲3.5	▲0.3	3.9	1.0	6.5	▲0.8	▲0.5	▲1.9	▲6.9
	6月	1.7	2.1	0.6	1.7	0.8	3.9	▲1.7	1.2	1.2	5.0	1.7	0.2
	7月	▲0.9	▲0.6	▲0.6	▲1.0	▲0.6	2.7	▲0.1	1.9	▲0.5	▲0.1	0.1	▲0.9
	8月	▲0.7	▲0.9	0.2	0.7	0.2	1.9	3.2	1.2	▲2.3	0.3	0.9	0.7
	9月	0.3	▲1.2	▲0.3	▲2.0	▲0.1	2.0	▲1.0	3.7	▲0.7	▲3.5	▲1.1	▲1.0
	10月	1.2	▲1.6	2.6	▲0.8	▲1.2	0.2	▲1.8	▲0.4	0.5	▲4.6	4.5	1.8
	11月	▲1.1	1.4	▲2.4	0.7	0.4	▲0.4	2.2	▲0.4	▲0.4	▲1.5	▲3.9	2.9
	12月	▲1.2	▲2.1	▲1.4	▲2.5	0.4	0.0	0.7	3.1	▲2.4	▲6.0	0.1	0.8
16	1月	2.5	▲4.2	2.0	▲5.4	▲0.3	0.2	▲0.1	4.1	4.2	▲10.7	2.1	▲2.2
	2月	▲5.2	▲1.2	▲4.1	▲1.6	▲0.2	▲0.9	▲1.5	0.9	▲8.1	▲1.5	▲4.3	▲0.7
	3月	3.8	0.2	1.8	▲0.7	2.9	1.8	3.3	3.8	2.6	▲4.8	0.0	0.5
	4月	0.5	▲3.3	1.6	▲3.4	▲1.7	0.1	▲2.2	1.8	5.2	▲3.7	4.9	0.6
	5月	▲2.6	▲0.4	▲2.6	▲1.0	0.4	0.8	1.8	2.6	▲1.4	▲1.1	▲5.3	1.3
	6月	2.3	▲1.5	1.7	▲1.7	0.0	0.0	▲1.5	2.8	1.0	▲2.9	1.7	▲0.7
	7月	▲0.4	▲4.2	0.7	▲4.0	▲2.4	▲1.8	1.1	4.0	0.6	▲4.9	3.4	▲1.8
	8月	1.3	4.5	▲1.1	1.6	0.3	▲1.6	▲3.2	▲2.3	0.2	2.5	▲4.2	2.0
	9月	0.6	1.5	1.8	0.7	▲0.5	▲2.0	1.1	▲0.2	0.3	3.3	3.1	1.1
	10月	0.0	▲1.4	2.0	▲2.0	▲2.1	▲3.0	▲0.6	1.1	2.1	1.7	3.8	▲1.3
	11月	1.5	4.6	1.0	5.1	▲1.6	▲4.8	▲5.6	▲6.7	2.1	7.6	▲0.9	6.2
	12月	0.5	3.0	▲0.3	2.4	0.2	▲5.0	0.9	▲6.5	▲1.8	4.7	▲0.7	0.9
17	1月	3.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	2月	0.8	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

(出所) 経済産業省「鉱工業指数」

(注)17年1、2月は、製造工業生産予測調査の数値

○10-12月期は増産ペース加速。内容も良好

経済産業省より発表された2016年12月の鉱工業生産は前月比+0.5%と、ほぼ事前の市場予想(前月比+0.3%)通りの結果となった。生産予測指数の前月比+2.0%こそ下回っているもののプラスは確保しており、11月の+1.5%という高い伸びの後にはは良好な数字とあって良い。実際、10-12月期の生産は前期比+2.0%と非常に高い伸びとなった。7-9月期が前期比+1.3%とはっきりした増産になった後、さらに増産ペースが加速しており、生産の回復傾向が明確化してきたことが確認できる。また、10-12月期の内訳をみると、特に輸送機械(前期比+3.6%、前期比寄与度+0.7%Pt)、電子部品・デバイス(前期比+8.1%、前期比寄与度+0.6%Pt)、はん用・生産用・業務用機械工業(前期比+3.6%、前期比寄与度+0.5%Pt)の3業種の押し上げ寄与が大きい。世界景気を持ち直しを背景として輸出の回復傾向が明確化していることが、生産押し上げに繋がっていることが伺える。

また、同時に公表された生産予測指数も17年1月に前月比+3.0%、2月に+0.8%と増産計画となっている。予測指数の下振れ傾向を加味してもまずまずの計画で、1-3月期も増産になる可能性が高まっている点は好材料といえるだろう。

そのほか、在庫指数は前月比+0.2%、在庫率指数は+0.9%とやや上昇したが、11月に大幅に低下した後、低水準を維持できているとの評価が可能。在庫水準は16年春をピークとして低下傾向にあり、概ね消費増

税前の水準にまで戻ってきた。在庫調整はほぼ終了したといっても良いだろう。在庫調整がこれまで生産の頭を押さえてきただけに、先行きの生産活動にとって朗報である。

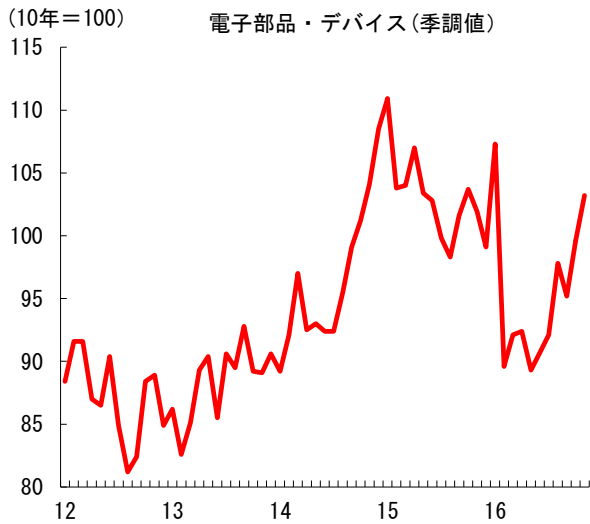
このように、今月の鉱工業指数は全体として良好な内容であったと評価できる。生産はながらく横ばい圏の推移が続いていたが、足元では上昇傾向が明確化している。

○予測指数もまずまず。先行きも上昇傾向が続く見込み

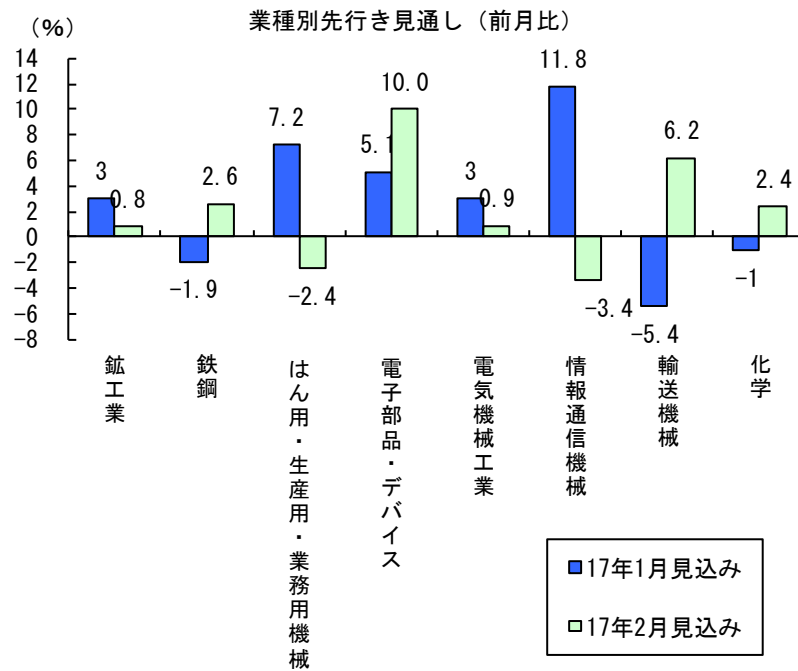
同時に公表された製造工業予測指数は17年1月が前月比+3.0%、2月が+0.8%と2ヶ月連続の増産計画となった。もちろん、実際の生産は予測指数から下振れる傾向があることに注意が必要で、そうした傾向を考慮して経済産業省が参考値として発表している1月の先行き試算値は前月比+0.5%となっている。小幅ではあるがプラスであり、仮にこの数字が実現した場合、1月の生産水準は10-12月期を+1.3%Pt上回ることになる。1-3月期の出だしとしては悪くない。10-12月期の前期比+2.0%という高い伸びからは鈍化するだろうが、1-3月期も生産の上昇傾向が続く可能性が高そうだ。世界的に製造業サイクルが上向いており、日本からの輸出も増加傾向にあることや、在庫調整の進捗で在庫の重石が取れつつあることなどが生産の持ち直しに繋がっていると考えられる。年明け以降に関してもこうした流れが続くとみられることに加え、経済対策効果の顕在化により建設関連財の持ち直しも期待できる。17年の生産は緩やかな上昇基調で推移する可能性が高いと予想する。

予測指数の内訳をみると、輸送機械で1月に前月比▲5.4%と減産計画になっている点が目に付く。ただこれは、新車投入による増産の反動の面が大きいとみられる。在庫水準は低い上、2月には前月比+6.2%と減産分を取り戻す計画となっており、懸念は不要だろう。そのほかでは、電子部品・デバイスが1月に前月比+5.1%、2月に+10.0%と非常に高い伸びになっていることが目立つ。さすがに出来上りの数字は下方修正されるだろうが、それにしても強い計画だ。IT関連財については、新型スマホ発売による増産効果が剥落するのではという懸念があったが、今のところそうした心配はうかがえない。在庫率の水準も低く、今のところ、企業が需要以上に生産を膨らませているという状況でもないようだ。引き続き警戒は必要だが、IT関連財の好調が見込まれている点は先行きの生産活動にとって朗報である。





(出所) 経済産業省「鉱工業指数」



(出所) 経済産業省「製造工業生産予測調査」